

2014年10月24日

株式会社 リクルートジョブズ



-主婦の就業に関する1万人調査- 20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況

株式会社リクルートジョブズ(本社:東京都中央区、代表取締役社長:柳川昌紀)の調査研究機関「ジョブズリサーチセンター(<http://jbrc.recruitjobs.co.jp/>)」が、2013年12月に行った「主婦の就業に関する1万人調査」のうち、M字カーブ解消のターゲットとなる「20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況」をまとめましたので、ご報告いたします。

【全体概要】

○ **就業率40.7%、現在無業だが就業意向がある人は51.1%。就業意向がない人は8.2%にとどまる** [3P]
無業・就業意向者51.1%のうち、過去1年以内に仕事探しをした人は22.5%、仕事探しはしなかったが就業意向が高い人は11.2%、仕事探しはせず就業意向も「いずれは」と低い人は17.4%となった。
有職者の現雇用形態はアルバイト・パート55.8%、派遣・契約社員7.8%、正社員25.1%。無業・就業意向者の希望雇用形態は、アルバイト・パート中心(75.9%)である。

○ **就業率に影響を与える要素は、「本人年齢」と「同居している末子学齢」** [4P]
20～39歳は就業率が低く、年齢が上がるほど就業率は上昇する。また、同居している末子の学齢が小学校入学前だと就業率は28.1%と低いが、小学校低学年になると43.8%まで上昇、小学校高学年になると中学生以上とほぼ差がなくなる。同居している子供の人数や学歴による就業率の差は見られなかった。

【有職者(アルバイト・パート)の就業実態】

○ **仕事を選ぶ際の重視項目は「場所」、次いで「休日」「時間」** [5P]
上位5項目のうち4項目が場所に関する項目となった(「1位:転勤が無いこと」「2位:通勤の便が良いこと」「3位:希望する勤務地であること」「5位:通勤時間が短いこと」。次いで、休日や時間に関する項目が続く(「4位:休暇をとりやすいこと」「7位:希望する休日、残業、勤務時間であること」「9位:勤務する曜日が選べること」)。

○ **年収は平均88.3万円、103万円以下が79.6%。扶養範囲等で上限を設けているのは72.3%** [8P]
扶養範囲等を意識して年収に何らかの上限を設けている人は有職者(アルバイト・パート)の72.3%となった。最低でもこれくらいは欲しい年収は109.3万円(現在の年収比1.2倍)、自分の能力で最大限これくらい稼げると思う年収は152.7万円(同1.7倍)と回答しており、いずれも現在の年収より高い結果となった。

○ **現在の仕事の満足度は67.2%、仕事のやりがいは「他者からの承認」** [9P]
仕事を選ぶ際の重視度が高い「場所」や「休日」「時間」に関する項目の満足度が高い。仕事でやりがいを感じる状況は、他者からの承認によるものが上位を占めた(「1位:人に感謝された時」「3位:上司に褒められた時」)。

【無業・就業意向者の実態】

○ **今後の就業意向は、「よい仕事があれば」「いずれは」と考えている潜在層が大半** [10P]
「すぐにでも職業をもちたい」と答えた人は8.4%と少なく、「よい仕事があれば(48.6%)」「いずれは(42.5%)」と考えている潜在層が大半を占める。過去1年以内に仕事探しをした人も、「すぐにでも」と答えた人は15.8%にとどまる。

○ **93.7%が就職に不安を感じている。具体的な理由は「ブランクの長さ」と「育児との両立」** [10P]
就職に向けた不安度は高く、「大変不安」と答えた人が44.3%存在。前職からのブランク期間が長くなればなるほど、「大変不安」の比率は高まる。

【本件に関するお問い合わせ先】
<http://www.recruitjobs.co.jp/RJB/contact.html>

【調査概要】

本調査は、18歳以上の女性のうち、「既婚」かつ「子供あり」を対象に、主婦の就業・求職実態(状況、行動、意義)、普段の情報接触実態を明らかにするための調査である。

そのうち本レポートでは、M字カーブの解消をテーマに、有職者の比率が低く、就業意向はあっても求職活動をしていない層が多い「20～49歳の既婚・子供あり女性」にフォーカスして分析を行う。

さらに、「20～49歳の既婚・子供あり女性」を、現在の就業状況と、求職状況・今後の就業意向により、A～Eに5分類した。

■調査方法 インターネット調査(マクロミル社モニター利用)

■調査期間 2013年12月17日(火)～12月20日(金)

■調査対象 18歳以上、下記在住の女性 (n=10,240人)
北海道、新潟、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、福岡

■本レポート対象 20～49歳の既婚・子供あり層 (n=4,281人)

20歳未満 (n=13)		20～49歳 (n=6,431)		50歳以上 (n=3,796)	
同居している子供の有無*1					
子供あり			子供なし		
婚姻状況	既婚	既婚・子供あり (n=4,281)		既婚・子供なし (n=1,506)	
	未婚・離死別	子供あり(既婚除く) (n=644)		50歳以上 50～54歳 1,485 55～59歳 1,031 60～64歳 764 65歳以上 516 就業率 50～54歳 51.4% 55～59歳 43.4% 60～64歳 31.8% 65歳以上 17.2%	
	有職者	1,741 (40.7%)	有職者		
	無業・求職者	962 (22.5%)	無業・求職者	337 (22.4%)	
	無業・非求職者・就業意向有	1,227 (28.7%)	無業・非求職者・就業意向有	307 (20.4%)	
	無業・非求職者・就業意向無	351 (8.2%)	無業・非求職者・就業意向無	158 (10.5%)	
	有職者	555 (86.2%)	/		
	無業・求職者	55 (8.5%)			
	無業・非求職者・就業意向有	27 (4.2%)			
	無業・非求職者・就業意向無	7 (1.1%)			

➡ **本レポートの対象者** *2

■分析セグメント (n=4,281人)

有職者*3 (n=1,741)	無業者*4 (n=2,540) ※括弧内は最も希望する雇用形態			
	過去1年間の求職状況と今後の就業意向			
※括弧内は現雇用形態	過去1年間に 仕事探しをした	仕事探しはして いないが意向高 「すぐにも」「よい仕事があれば」	仕事探しはして おらず意向低 「いずれは」	仕事探しをして おらず意向なし 「職業をもつつもりはない」
A	B	C	D	E
1,741人(40.7%) (AP*5 : 972人) (派契 : 136人) (正社 : 437人) (他 : 196人)	962人(22.5%) (AP : 740人) (派契 : 71人) (正社 : 124人) (他 : 27人)	481人(11.2%) (AP : 356人) (派契 : 33人) (正社 : 63人) (他 : 29人)	746人(17.4%) (AP : 565人) (派契 : 59人) (正社 : 94人) (他 : 28人)	351人(8.2%) 就業意向なし

・就業状況
・理想と実態
・満足度・やりがいい

・就業意向者の実態

*1 主婦の働き方には「同居している子供の有無」が影響しやすいため、同居している子供でセグメント分け

*2 調査結果は、小点数第二位四捨五入のため、TOTALが100%にならない場合がある

*3 有職者へも過去1年間の求職状況はたずねているが、分析セグメントでは求職活動の有無にかかわらず有職者全体として見ていくこととする

*4 無業者については、就業への「本気度」により求職状況や意識に差異があるのではないかと仮説に基づき、過去の求職行動と今後の就業意向を用いて4セグメントに分割(Bが最も本気度高い)

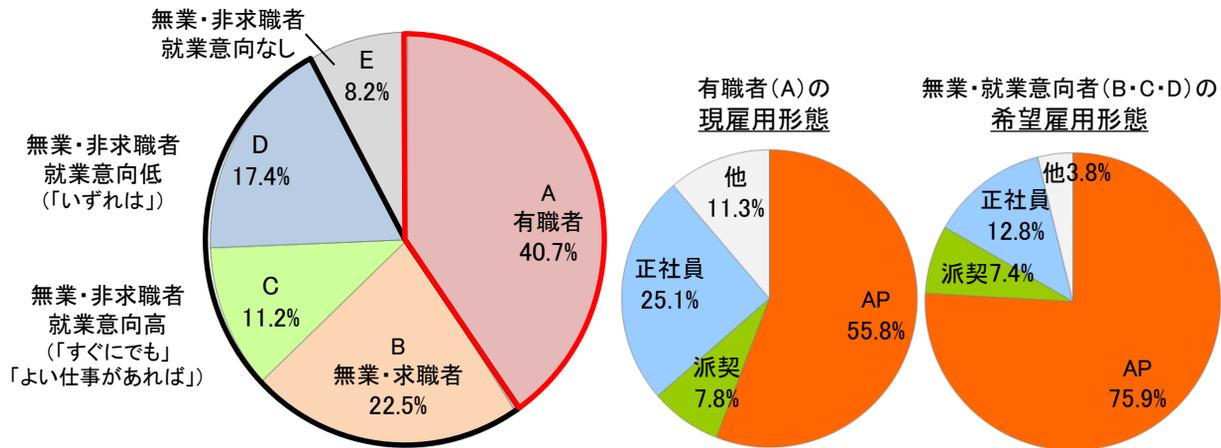
*5 アルバイト・パート

20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (1)全体概要

■全体概要

20～49歳の既婚・子供あり女性の有職者(A)は40.7%。無業者のうち、就業意向がある人(B+C+D)は51.1%。そのうち、求職者(過去1年間に仕事探しをした人)は22.5%(B)、仕事探しはしなかったが就業意向が高い人は11.2%(C)、仕事探しはせず、就業意向も「いずれは」と低い人は17.4%(D)。就業意向がないと答えた人は8.2%にとどまる(E)。

有職者(A)の現雇用形態は、アルバイト・パート55.8%、派遣・契約社員7.8%、正社員25.1%、その他11.3%。無業・就業意向者(B・C・D)の希望雇用形態は、アルバイト・パート75.9%、派遣・契約社員7.4%、正社員12.8%、その他3.8%となっている。

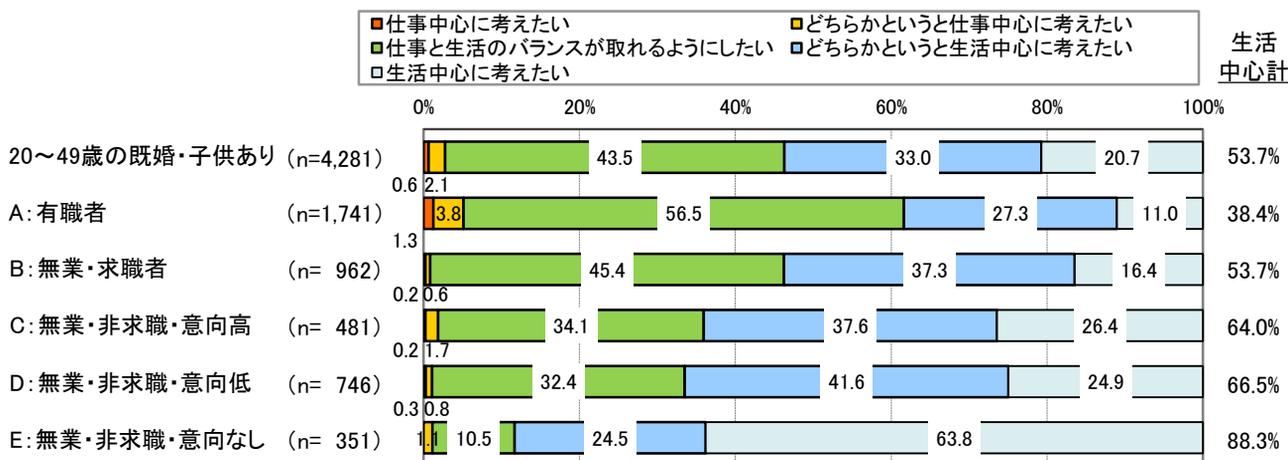


■仕事と生活のバランス

20～49歳既婚・子供あり女性のほとんどが、仕事と生活の比重について、「生活中心に考えたい(53.7%)」、もしくは、「仕事と生活のバランスが取れるようにしたい(43.5%)」と回答している。

有職者(A)については、「仕事と生活のバランスが取れるようにしたい(56.5%)」が最も多くなったが、仕事と生活の比重については、同様に生活中心の傾向となった。

無業・就業意向者(B・C・D)については、有職者よりも生活中心に考えており、特に就業意向が低くなるほどその傾向が強くなる。



20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (1)全体概要

■就業率に影響を与える要素

20～49歳の既婚・子供あり女性の就業率に影響を与える要素は、「本人年齢」と「同居している末子学齢」。「同居している子供の人数」や「本人の最終学歴」による就業率の差は見られなかった。

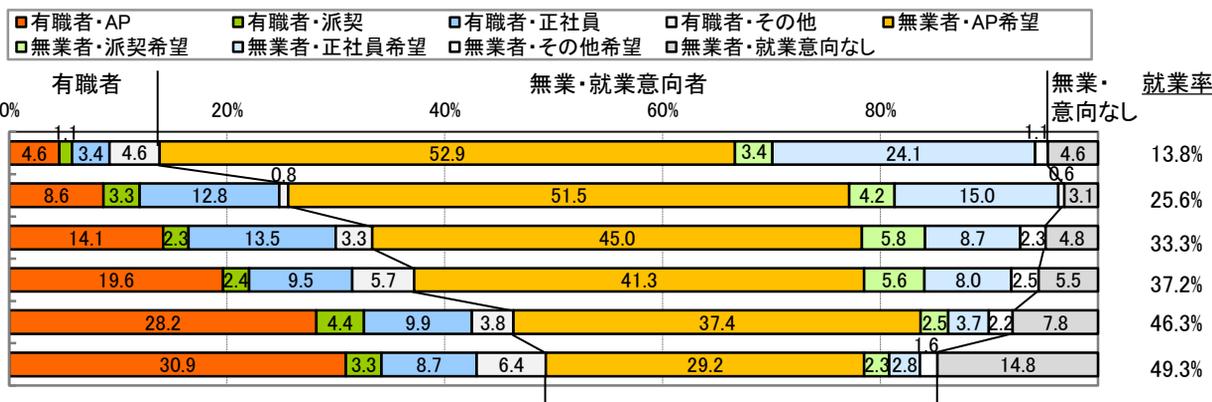
本人年齢が上がるほど就業率は上昇する。一方、40歳以上になると就業意向なしも増加する。

同居している末子学齢が小学校入学前は就業率が28.1%と低いが、小学校低学年になると43.8%まで上昇、小学校高学年になると、中学生以上とほぼ差がなくなる。

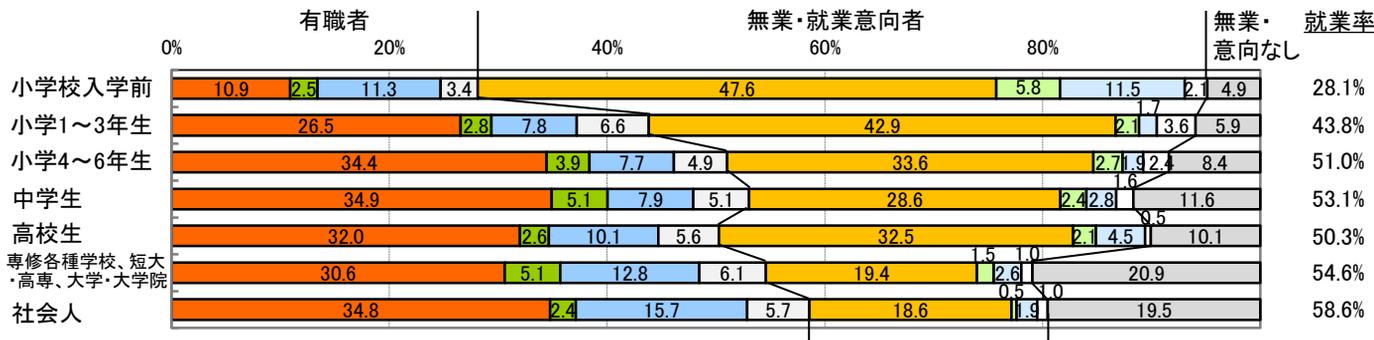
同居している子供の人数による就業率の差はない。

本人の最終学歴による差もないが、大学・大学院だと正社員比率が高まる。

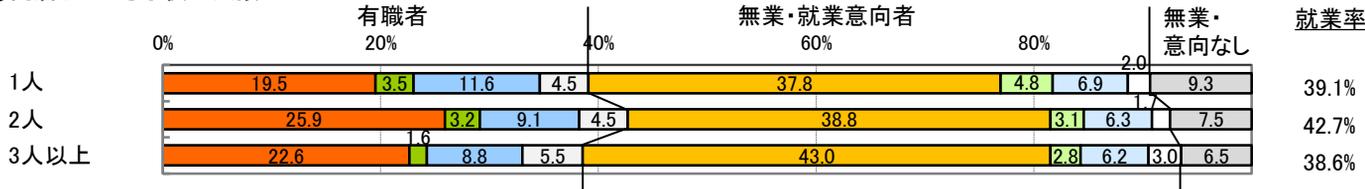
①本人年齢



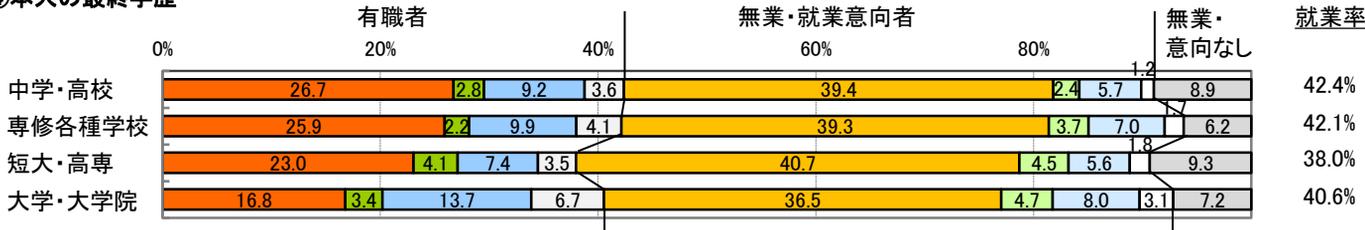
②同居している末子学齢



③同居している子供の人数



④本人の最終学歴



20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=972)の就業実態

■仕事を選ぶ際の重視項目 ※43項目中「非常に重視する」が選択された上位10項目

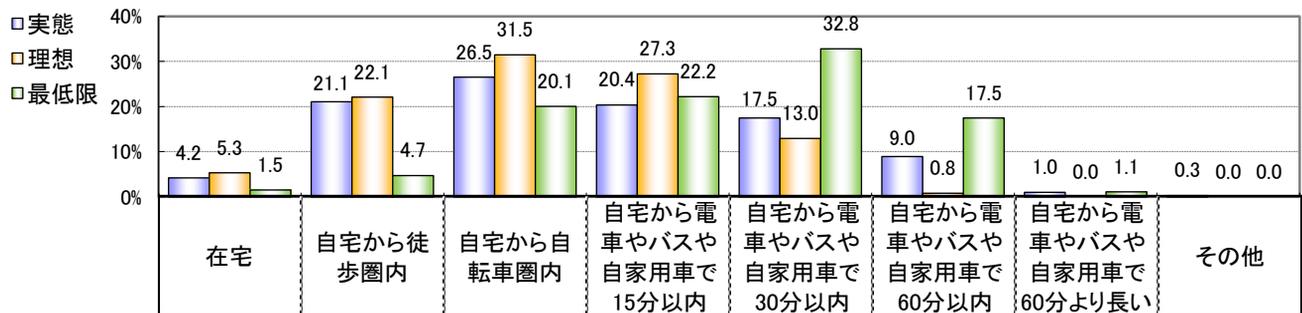
育児や家事との両立が大前提のため、場所に関する重視度が高い。次いで休日や時間。「長く働けそうであること(6位)」「安心して働けそうであること(9位)」といった項目も上位に。

	仕事を選ぶ際の就業条件の重視度	非常に重視	分類
1位	転勤が無いこと	45.1%	場所
2位	通勤の便が良いこと	40.8%	場所
3位	希望する勤務地であること	38.9%	場所
4位	休暇をとりやすいこと	36.6%	休日
5位	通勤時間が短いこと	35.4%	場所
6位	長く働けそうであること	34.2%	環境
7位	希望する休日、残業、勤務時間であること	31.8%	休日・時間
8位	希望する職種、仕事内容であること	30.3%	仕事内容
9位	安心して働けそうであること	29.6%	環境
9位	勤務する曜日が選べること	29.6%	休日

■働く条件の理想と実態 (1)通勤時間

現在の職場の通勤時間は「自宅から徒歩圏内(21.1%)」から「自宅から電車やバスや自家用車で15分以内(20.4%)」、最も多いのは「自宅から自転車圏内(26.5%)」。

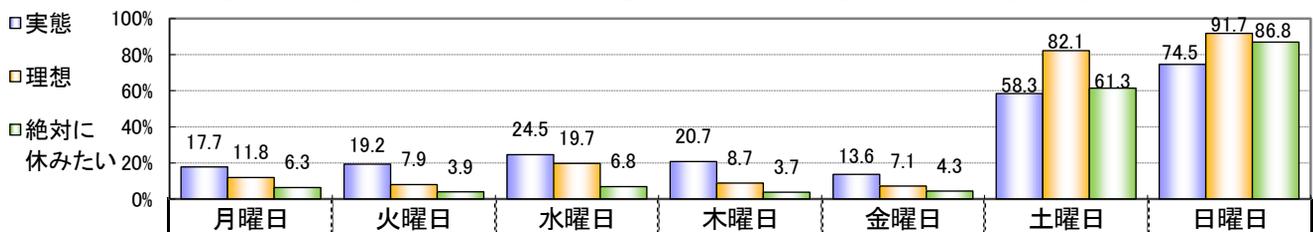
理想的な通勤時間も、ほぼ同様の傾向である。最低でもこれよりも近くでないとい困る通勤時間は、「自宅から電車やバスや自家用車で30分以内(32.8%)」。職住近接型での働き方である。



■働く条件の理想と実態 (2)休日の曜日 ※複数回答

現在の職場の休日は、「日曜日(74.5%)」「土曜日(58.3%)」中心で、平日も2割前後の人が休んでいる。

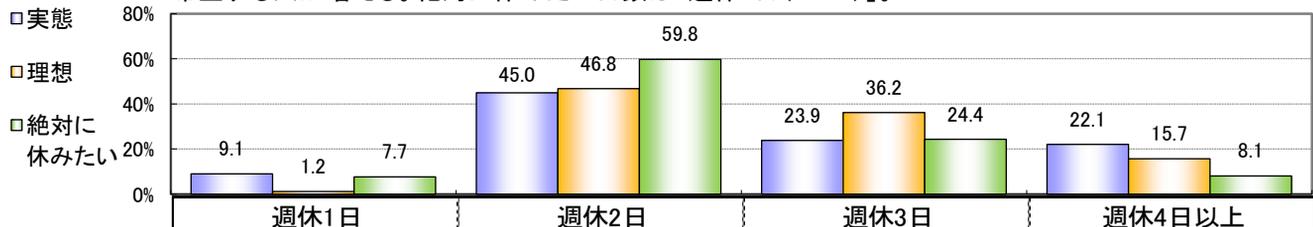
理想的な曜日は、圧倒的に「日曜日(91.7%)」「土曜日(82.1%)」が多く、なかでも絶対に休みたい曜日は「日曜日(86.8%)」のため、勤務先の都合もあり、実際には土曜日は譲っている人が多い。



■働く条件の理想と実態 (3)休日の日数

現在の職場の休日は「週休2日(45.0%)」が多く、次いで「週休3日(23.9%)」「週休4日以上(22.1%)」が続く。

理想的な休日の日数は、「週休2日(46.8%)」が多いのは実態と同様だが、実態より「週休3日(36.2%)」を希望する人が増える。絶対に休みたい日数は「週休2日(59.8%)」。

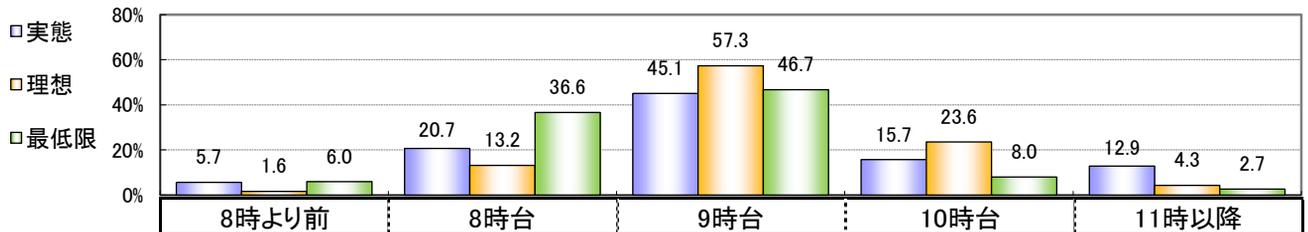


20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=972)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (4)始業時間

現在の職場の始業時間は、「9時台(45.1%)」「8時台(20.7%)」中心。

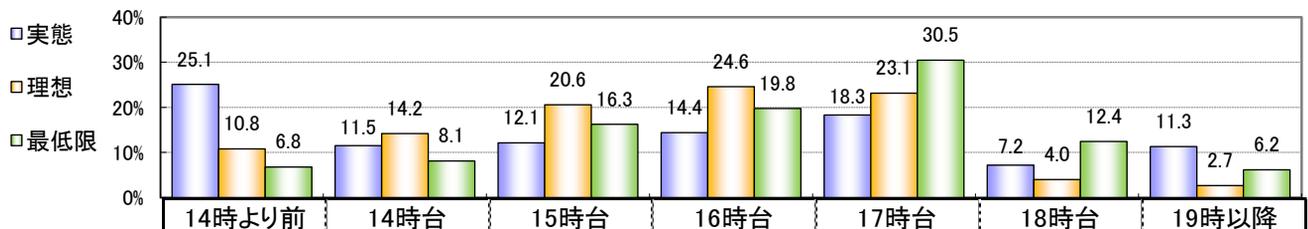
理想的な始業時間は「9時台(57.3%)」「10時台(23.6%)」だが、実際には理想より1時間ほど早めに働き始めている傾向がある。最低でもこれくらいからなら入社(店)できる始業時間は、「9時台(46.7%)」「8時台(36.6%)」が多い。



■働く条件の理想と実態 (5)終業時間

現在の職場の終業時間は、「14時より前(25.1%)」が多く、次いで「17時台(18.3%)」「16時台(14.4%)」「15時台(12.1%)」と続く。

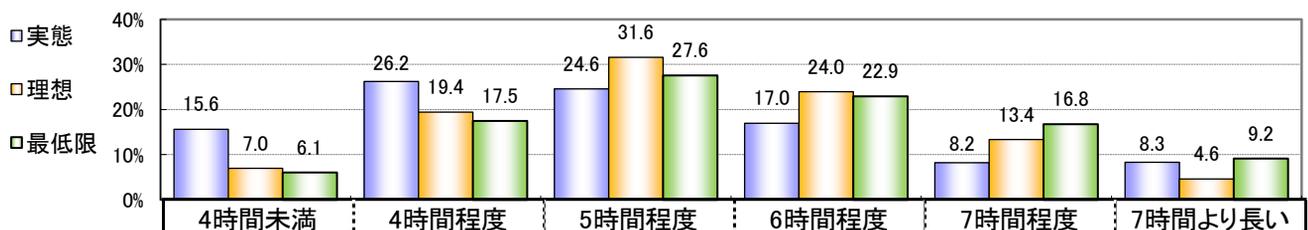
理想的な終業時間は、「16時台(24.6%)」「17時台(23.1%)」「15時台(20.6%)」が多く、18時以降は大幅に減少する。最低でもこれくらいには帰りたい終業時間は、「17時台(30.5%)」、次いで「16時台(19.8%)」「15時台(16.3%)」。



■働く条件の理想と実態 (6)一日の就業時間

現在の職場の一日の就業時間は、「4時間程度(26.2%)」「5時間程度(24.6%)」が多く、次いで「6時間程度(17.0%)」「4時間未満(15.6%)」が続く。

理想的な就業時間は、「5時間程度(31.6%)」が最も多く、次いで「6時間程度(24.0%)」「4時間程度(19.4%)」。実際はもう少し働きたいと思っているが、実際に働いている時間は短い。一日に最低これくらい働ける、働きたいと思う就業時間は「5時間程度(27.6%)」「6時間程度(22.9%)」。

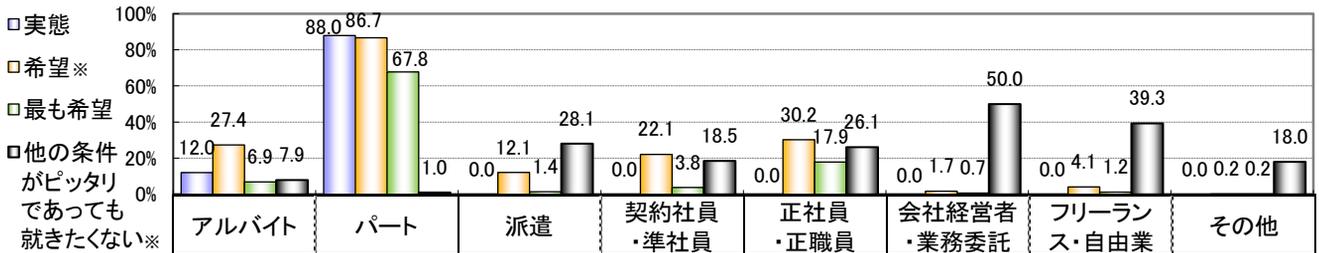


20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=972)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (7)雇用形態 ※「希望」「他の条件が～」は複数回答

現在働いている雇用形態は、「パート」が88.0%、「アルバイト」が12.0%。

希望する雇用形態は、「パート(86.7%)」が圧倒的に多く、次いで「正社員・正職員(30.2%)」「アルバイト(27.4%)」と続く。最も希望する雇用形態は、「パート(67.8%)」が多いが、「正社員・正職員」も17.9%存在。一方、他の条件がピッタリであっても就きたくない雇用形態は、「会社経営者・業務委託(50.0%)」「フリーランス・自由業(39.3%)」「派遣(28.1%)」「正社員・正職員(26.1%)」となっている。

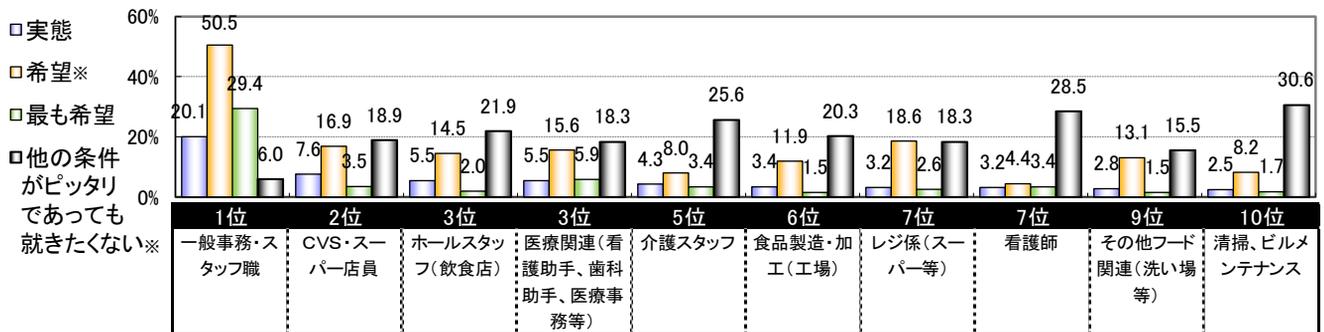


※「実態」「最も希望」は単一回答、「希望」「他の条件が～」は複数回答

■働く条件の理想と実態 (8)職種 ※現在働いている職種の上位10項目 ※「希望」「他の条件が～」は複数回答

現在働いている職種は、「一般事務・スタッフ職(20.1%)」「CVS・スーパー店員(7.6%)」「ホールスタッフ(飲食店)(5.5%)」「医療関連(5.5%)」「介護スタッフ(4.3%)」と続く。

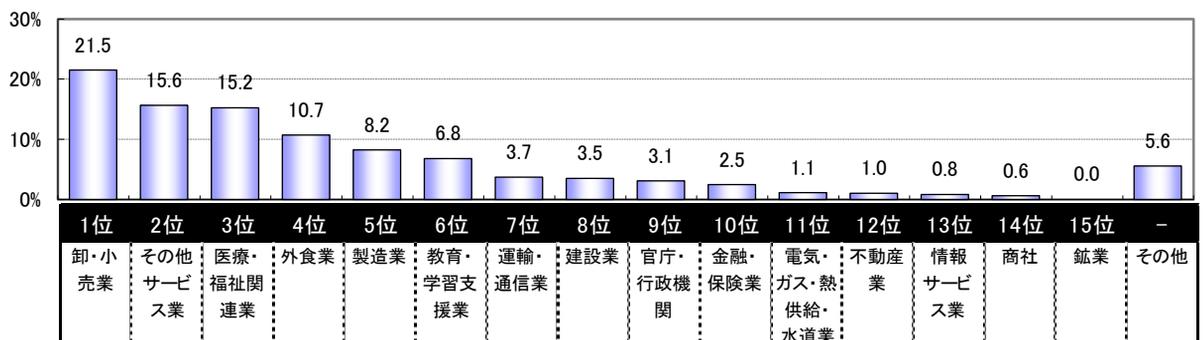
「一般事務・スタッフ職」は、希望者は非常に多いが、実際に働いている人は2割程度にとどまる。一方、「一般事務・スタッフ職」以外の職種は、希望者も存在するものの、他の条件がピッタリであっても就きたくないと答えた人も一定割合存在する。



※「実態」「最も希望」は単一回答、「希望」「他の条件が～」は複数回答

参考) 現在働いている業種

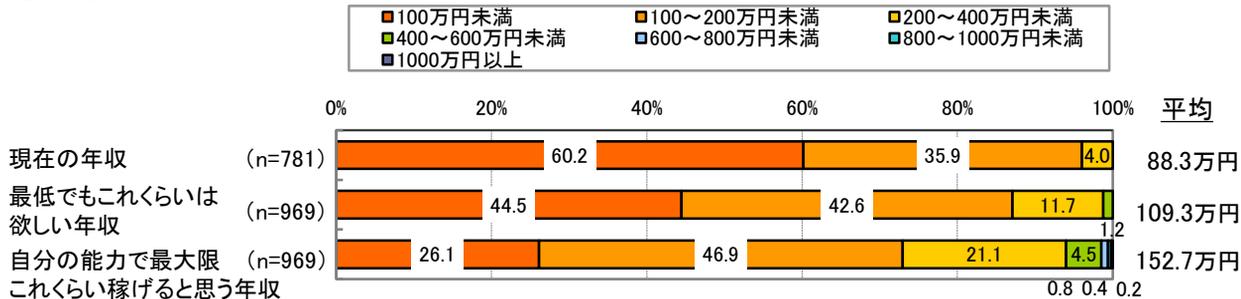
現在働いている業種は、「卸・小売業(21.5%)」が最も多く、次いで「その他サービス業(15.6%)」「医療・福祉関連業(15.2%)」「外食業(10.7%)」。アルバイト・パートの活用が進む、第三次産業が中心となっている。



20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=972)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (9)年収

有職者の現在の年収は、平均88.3万円。「100万円未満(60.2%)」、「100～200万円未満(35.9%)」が大半である。最低でもこれくらいは欲しい年収は平均109.3万円と、現在の年収平均よりも高くなった(現在の年収比1.2倍)。自分の能力で最大限これくらい稼げると思う年収は平均152.7万円(同1.7倍)となった。



参考) 扶養範囲と年収の関係

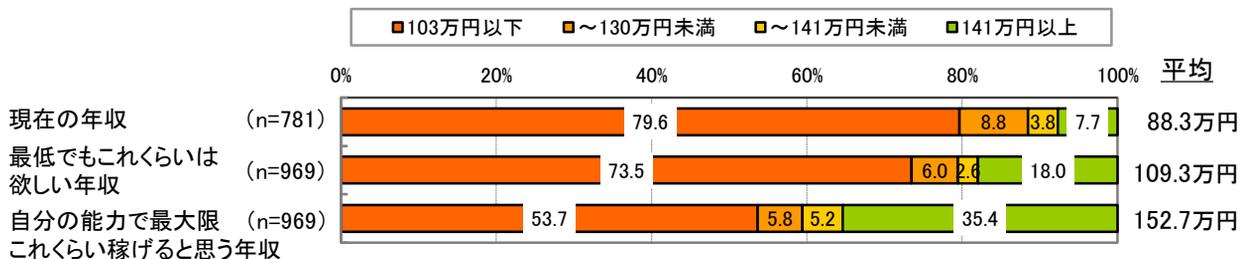
扶養範囲別にみると、「103万円以下※1」が79.6%、「103万円超～130万円未満※2」が8.8%、「130万円以上～141万円未満※3」が3.8%。扶養範囲を完全に外れる「141万円以上」はわずか7.7%にとどまる。扶養範囲を外れる「141万円以上」は、最低でもこれくらいは欲しい年収でも18.0%、自分の能力で最大限これくらい稼げると思う年収では35.4%となった。

※1) 103万円以下

:妻の年収に所得税がかからず、夫の税金に配偶者控除が適用される範囲内

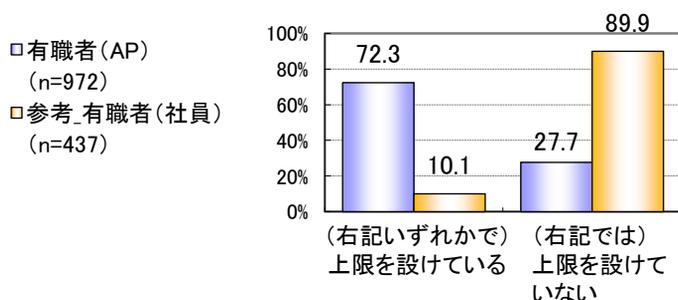
※2) 103万円超～130万円未満 :夫の税金に配偶者特別控除が適用され、かつ、社会保険料の扶養範囲内

※3) 130万円以上～141万円未満:夫の税金に配偶者特別控除が適用されるが、社会保険料は自己負担



参考) 年収の上限設定

年収に何らかの上限*を設けているのは、アルバイト・パートの72.3%(社員は10.1%)。働く女性にとって年収の壁と言われる「103万円の壁」や「130万円の壁」を意識している人は多い。



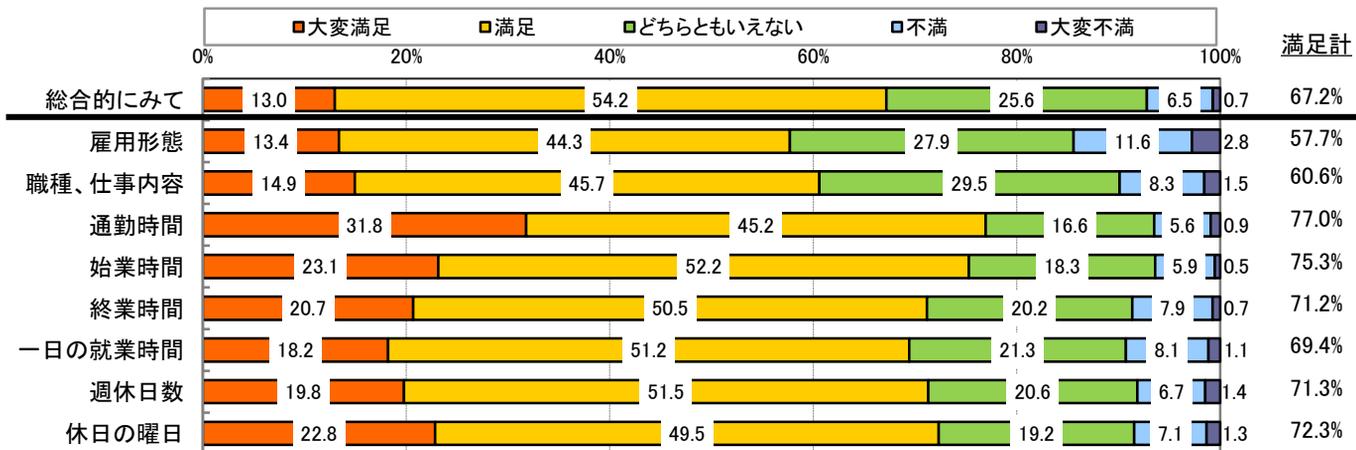
*上限とは、以下4項目のいずれかを選択

1. 自身の収入に住民税がかからないようにするために上限を設けている
2. 自身の収入に所得税がかからず、かつ配偶者控除の適用を受けるために上限を設けている
3. 夫の社会保険に被扶養者として加入するために上限を設けている
4. 配偶者特別控除の適用を受けるために上限を設けている

20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=972)の就業実態

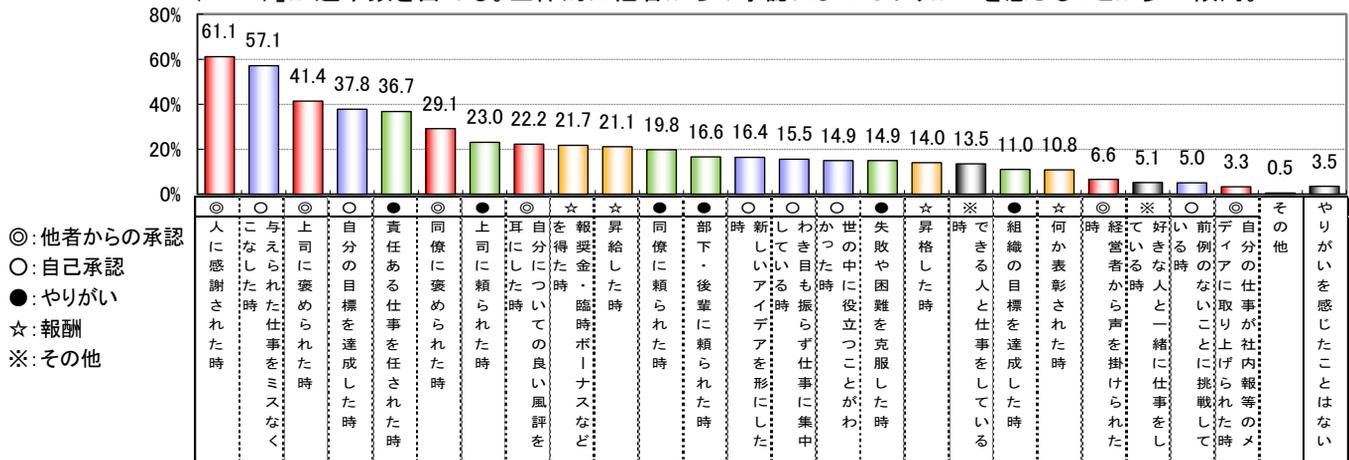
■現在の仕事の満足度

現在の仕事の満足度は、総合的にみて「大変満足(13.0%)」「満足(54.2%)」と概ね満足しており、不満と答えた人は1割にも満たない。就業条件別の満足度では、「雇用形態」「職種、仕事内容」の満足度が比較的低い一方、「通勤時間」「始業時間」の満足度が比較的高い。



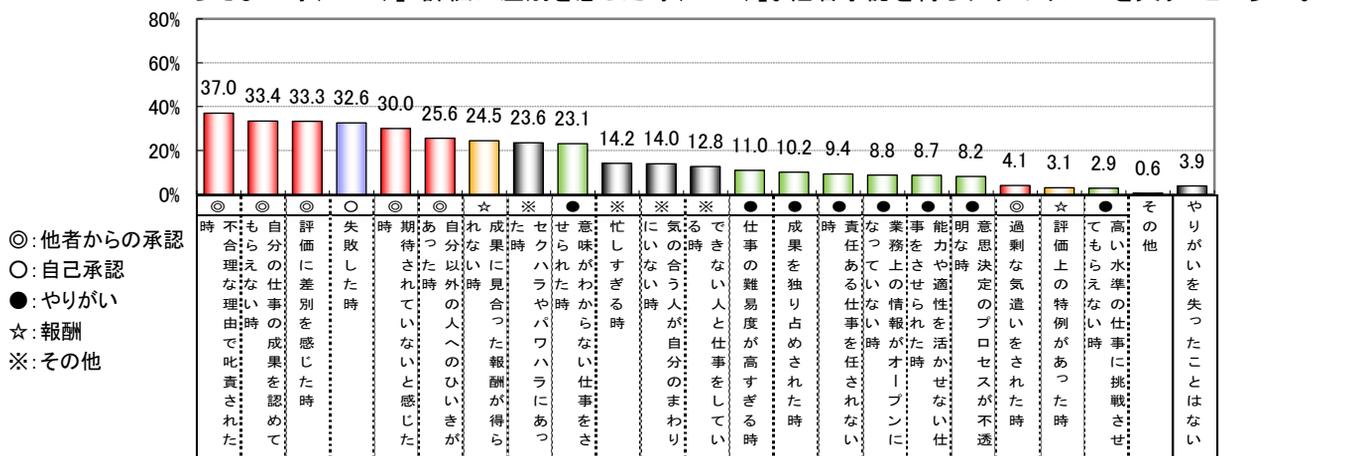
■仕事でやりがいを感じる状況 ※複数回答

仕事でやりがいを感じる状況は、「人に感謝された時(61.1%)」「与えられた仕事をミスなくこなした時(57.1%)」が過半数を占める。全体的に他者からの承認によってやりがいを感じる傾向が多い。



■仕事でやりがいを失う状況 ※複数回答

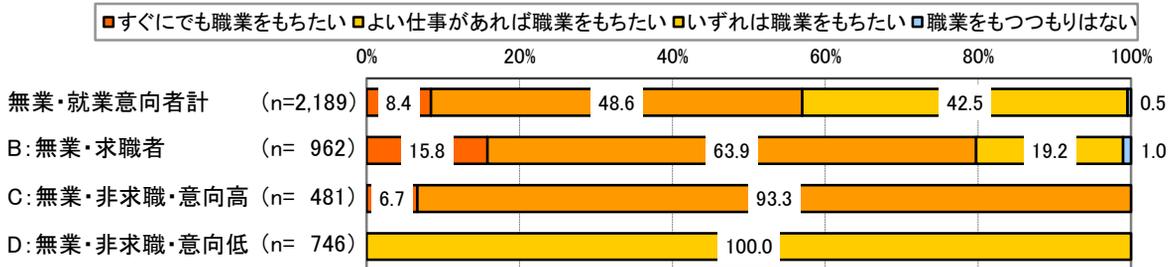
仕事でやりがいを失う状況は、「不合理な理由で叱責された時(37.0%)」「自分の仕事の成果を認められない時(33.4%)」「評価に差別を感じた時(33.3%)」。他者承認を得られずやりがいを失うことが多い。



20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (3) 無業・就業意向者(B・C・D/n=2,189)の実態

■今後の就業意向

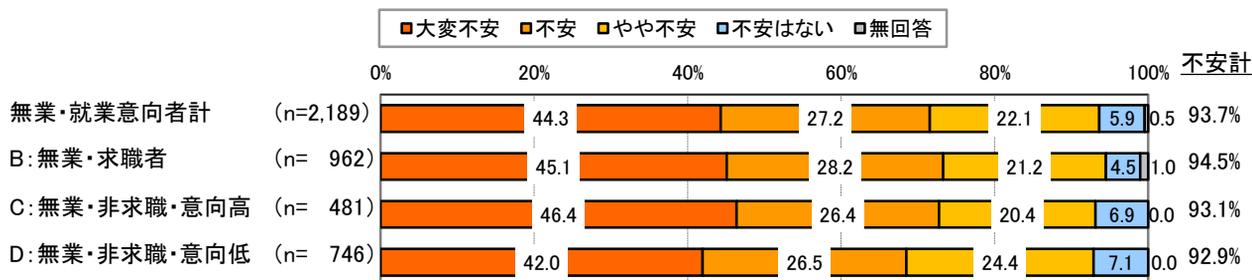
無業・就業意向者(B・C・D)の就業意向は、「すぐにも職業をもちたい(8.4%)」は少なく、「よい仕事があれば職業をもちたい(48.6%)」「いずれは職業をもちたい(42.5%)」が大半を占める。



■就職への不安度

就職に向けての不安度は高く、無業・就業意向者全体(B・C・D)の93.7%が不安と回答。そのうち、「大変不安」が44.3%存在。不安度については、就業への本気度(過去の求職行動や今後の就業意向)にかかわらず、総じて高い傾向。

具体的な不安理由を自由回答で記載した人のうち、それぞれ約1/4の人が「離職期間が長いことによって感じる不安」と「育児と両立させることができるか」を理由として挙げている。



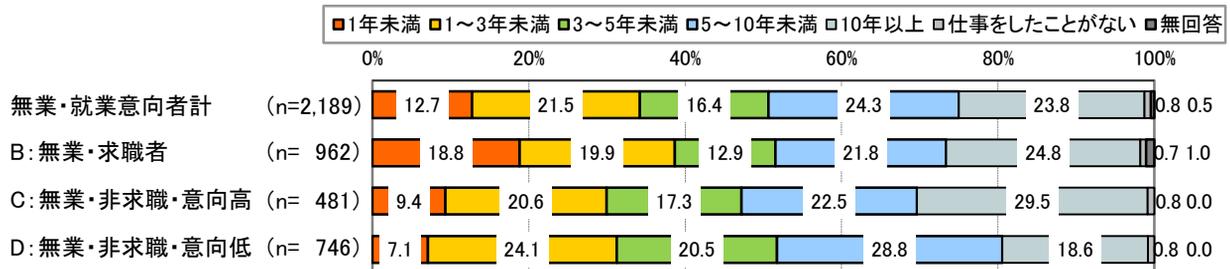
※具体的な不安理由(自由回答より抜粋)

- 約1/4の人が記載した不安理由 「離職期間が長いことによって感じる不安」
「育児と両立させることができるか」
- 1割強の人が記載した不安理由 「人間関係においてうまくやっていけるか」
「年齢制限によって仕事が見つげにくいのではないか」
「現代のやり方に適応できるのか」
- その他不安理由 「新たに仕事を覚える事ができるか」
「有事の際に早退や休むことができるのかどうか」
「体力面で感じる不安」
「家事と両立させることができるか」

20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (3)無業・就業意向者(B・C・D/n=2,189)の実態

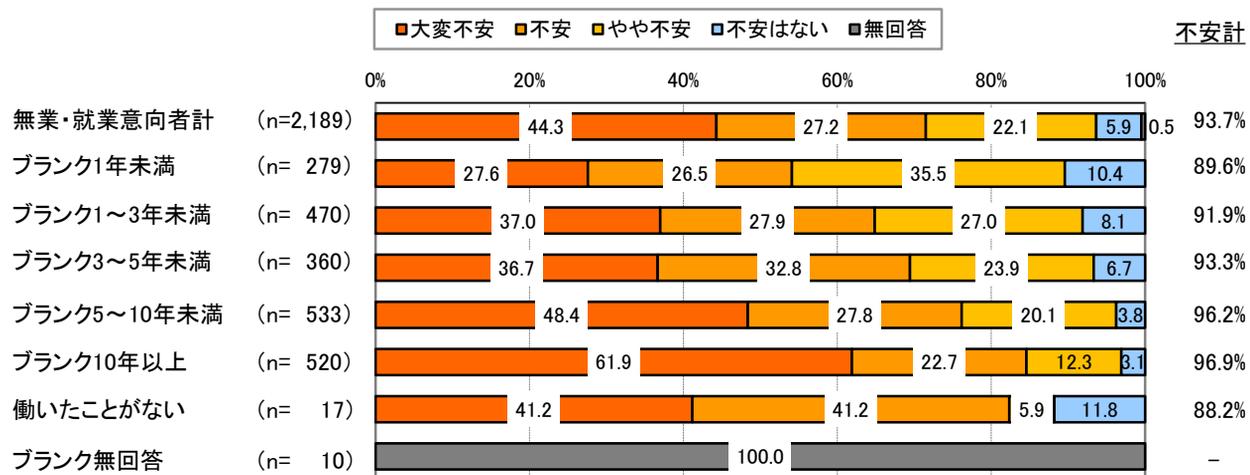
■前職からのブランク期間

前職からのブランク期間が10年以上ある人が23.8%、5～10年未満の人が24.3%。前職からのブランクが5年以上ある人が約半数を占める。



参考) ブランク期間と不安の相関

前職からのブランク期間が長くなればなるほど、就業への不安度が増し、「大変不安」の比率が高まる。

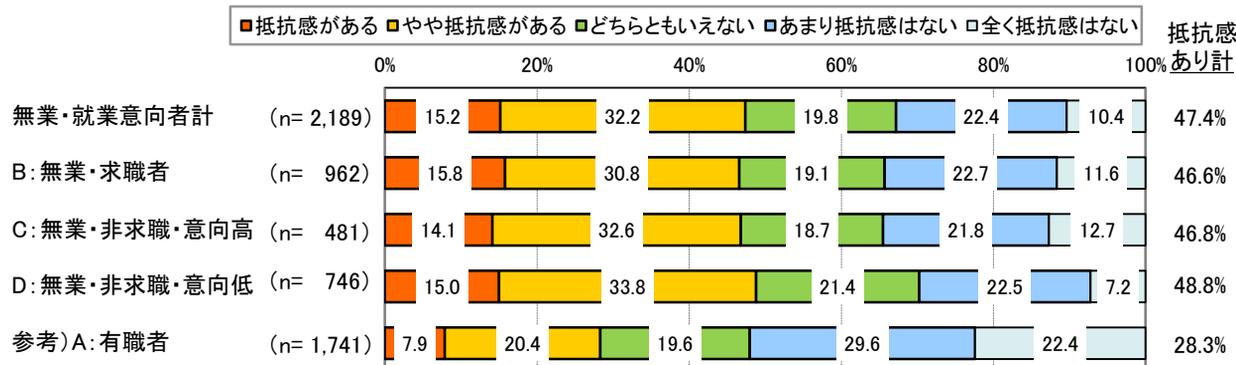


20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況 (3)無業・就業意向者(B・C・D/n=2,189)の実態

参考) 保育園に子供を預けることへの抵抗感

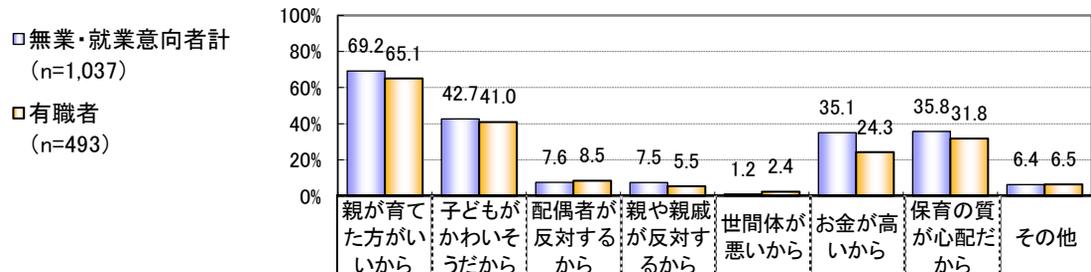
就業への本気度(過去の求職行動や今後の就業意向)にかかわらず、半数近くの人が保育園に子供を預けることに抵抗感を感じている。

一方で、有職者は抵抗感を感じない人が52.0%と半数を超える。



抵抗感を感じる理由 ※複数回答

抵抗感を感じる理由は、「親が育てた方がいいから(69.2%)」「子どもがかawaiiそうだから(42.7%)」が中心。無業・就業意向者と有職者の理由に差はない。



抵抗感を感じない理由 ※複数回答

抵抗感を感じない理由は、「働くために必要だから(75.2%)」「小さい頃からたくさんの人と触れ合った方がよいと思うから(67.4%)」が中心。抵抗感を感じる理由と同様、無業・就業意向者と有職者の理由に差はない。

